

F 課外活動

1 ワークショップ

1. 1 Seminar for Intercultural Communication

—他国の実情を知り、英語で他者と共有する—（英語分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

情報化社会の現在、容易に他国の情報を入手できるが、その真偽を測ることは難しい。実際に他国の人の生の声を聞いて異文化理解をすること、また今ある英語を使って、他者と情報を共有できる能力を身につけることは大変重要である。英語によるプレゼンテーションやディスカッションの方法を知り、講師やグループ内でのコミュニケーションを取りながら、実際にそれらを体験するということを主眼におき、本セミナーを2回実施した。

(2) 研究開発の経緯

少人数の4クラスに分かれ、第1回目はペルー、トルコ、ニュージーランド、アイルランド、第2回目はフィリピン、アルゼンチン、ルーマニア、アメリカ出身の講師より、前半はその国のことや講師自身の紹介を聞き、後半は1年生はプレゼンテーション準備、2年生は自分たちの意見についてディスカッションを行い、それぞれ最後に全体の場で発表した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は英語コミュニケーション力や外国文化への興味・関心などの「国際性」を促すことが出来る。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH 英語

対象生徒 普通科1, 2年生徒

第1回24名、第2回21名

日時場所 12月2日(土)、

1月27日(土) 本校

実施内容

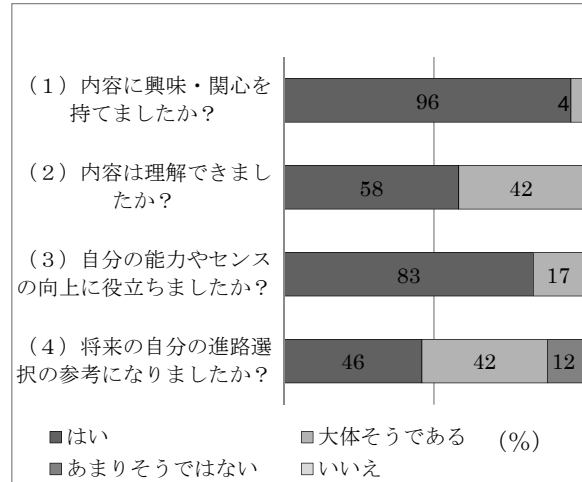
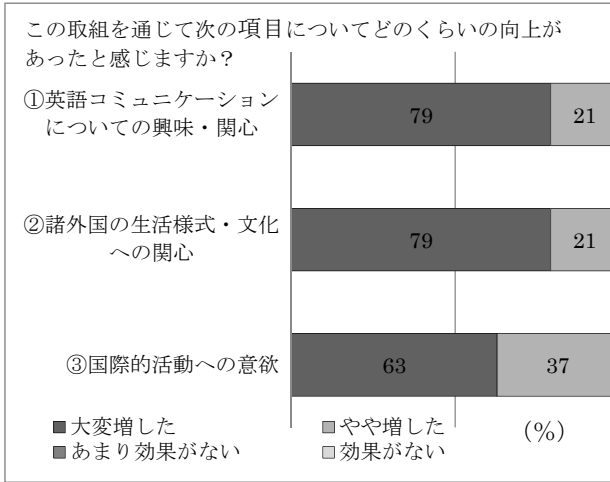
講義「Seminar for Intercultural Communication

—他国の実情を知り、英語で他者と共有する—

講師 コスモペース株式会社 Kazushi Muir 他7名

内容 クラスごとに講師の指導を受けながらプレゼンテーション作成やディスカッションをし、全体の場で、発表し質疑応答をする。

ウ 検証（成果と反省） ※掲載は第1回のアンケート結果のみ



生徒の感想から

- ・少人数での活動だったので、一人一人が積極的に発言し、楽しくコミュニケーションをとることができた。
- ・他国に興味・関心をもつための良い機会になったと思う。
- ・英語の勉強への意欲も増した。
- ・インターネットで調べるよりもずっとよく知識を得られた。
- ・短時間で理解し、内容をまとめ、発表することの大変さがわかった。
- ・思っていた以上に楽しく英語の能力が向上したと感じた。
- ・英語を使ったディスカッションは初めてだったので、とても楽しかった。難しかったが、これからの自分に役立つはずだと思っている。

アンケート結果から、参加者のほぼ全員がセミナーの内容に満足していることが窺えた。短時間で与えられた情報を理解し、発表のためにまとめることの大変さを実感することができたようだ。英語や異文化に対する興味・関心が広がった様子で、「本当に楽しかった。少人数制なので積極的に発言できた。」「また開催してほしい。」などの回答も多く見られた。



セミナーに参加する生徒の様子

